

第 1027 回教育委員会 会議録

平成 28 年 6 月 23 日

14:00~14:55

①開 会

<廣瀬教育長>

それでは、ただいまから、第 1027 回教育委員会を開会いたします。

②会議録署名委員の指名

<廣瀬教育長>

会議録署名委員に、小嶋委員と涌井委員を指名いたします。

③会期の決定

<廣瀬教育長>

会期は、本日一日としていかがですか。

<各 委 員>

異議なし。

<廣瀬教育長>

御異議なしと認め、会期は本日一日に決定いたします。

④議 事

<廣瀬教育長>

それでは、これより議事に入ります。

議第 1 号「山形県立高等学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について」及び 議第 2 号「平成 29 年度山形県立高等学校の入学者募集について」、これらは関連する議案となりますので、総務課教職員室管理主幹及び高校教育課長より、一括して説明願います。

<管 理 主 幹>

それでは、教職員室が所管いたします山形県立高等学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について、御提案申し上げます。

県立米沢工業高等学校専攻科の入学定員の変更を図るための提案であります。山形県立高等学校管理運営規則において、米沢工業高等学校専攻科の入学定員を 12 名から 10 名に変更いたします。変更理由につきましては、高校教育課から説明させていただきます。

<高校教育課長>

それでは、資料頁 1 - 3 を使い説明させていただきます。内容は、平成 29 年度入学者募集を 12 名から 10 名に変更するものでございます。理由といたしましては、資料の 2 でございます。同校全日制の入学定員と学区内中学校卒業者の減少に対応するためでございます。専攻科への主な進学者については、米沢工業高校の全日制を卒業して、そこから専攻科にという流れがほとんどでございます。その米沢工業高校全日制の生徒数ですが、平成 23 年度から 240 名でございまして、平成 28 年度に募集人員が 200 名に変更になったところでございます。比率としましては 240 名から 200 名と、83.3%に減少したということでございます。また、専攻科の方もここ数年定員割れが続いておりまして、12 名が集まらない状況にあります。この全日制の募集定員の減少にあわせまし

て、専攻科の定員を10名することではどうかというものです。

また、南学区には長井工業高校もあり、そこからの専攻科への進学者も若干名いますので、そちらも含めた状況としましては、南学区全体として、今後、平成31年度には86.4%まで中学校卒業生数が減少する状況もございますので、このあたりから、専攻科の入学定員を12名から10名に変更するという算出をしたものでございます。

あわせて、資料3番になりますが、現在、情報技術コースを6名、生産技術コースを6名ということで募集し、生産技術コースは入ってから、精密機械分野と生産デザイン分野の3名ずつに分かれるという状況にあります。これを10名に募集を減らした場合は、情報技術コースを4名に、生産技術コースを解体し、現行の精密加工分野である、生産システムコースを3名、それから生産デザインコースを3名と、1年次から分けて募集し、入学と同時に専門的な履修ができるようにするものであります。

以上のように、米沢工業高校専攻科の入学定員を12名から10名に変更するものが議第1号であります。

続いて議第2号でございますが、資料2-1を御覧ください。議第1号をお認めいただいたあかつきには、このような形で入学者選抜を実施したいというものです。詳しくは次の頁、2-2を御覧ください。募集としては10名。コース等については、学校で作成する募集要項の方で、詳しく示すこととしております。平成28年8月1日から12日までという出願期間を設けて、県下一円から募集をし、選抜は8月17日といたします。なお、毎年夏に実施しております。もし、ここで入学定員に満たない場合は、平成29年1月に2次募集と選抜を実施することとしております。

以上、あわせて御提案申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

<廣瀬教育長> ただいま、議第1号、議第2号の説明がありましたが、御意見、御質問等ございますでしょうか。

<菊川委員> 現行では定員12名ということですが、実際には何名在籍しているのでしょうか。

<高校教育課長> 現在、2年生が6名、1年生も6名となっております。

<菊川委員> 定員を満たしていない状況なのですね。

<高校教育課長> はい。

<小嶋委員> 確か1年で終える方もいると聞いていますが、これは卒業という扱いになるのですか。

- < 高校教育課長 > はい。なお、1年又は2年という募集をしておりますので、生徒本人に、2年間継続して学びたいという意思がある場合は、1年目が終わった段階で卒業という形はとらないで、引き続き専攻科在籍ということになります。
- < 小 嶋 委 員 > 1年で修了する方も中退ということではなく卒業になるのですね。
- < 高校教育課長 > はい。
- < 小 嶋 委 員 > 去年から言っているのですが、せっかく学んでも学歴は高卒扱いになることが気の毒だなと思っています。
- < 廣瀬教育長 > 生徒さんには、その点は説明しているのですよね。
- < 高校教育課長 > はい、しております。
- < 小 嶋 委 員 > 2年間あれば短大に行けますからね。
- < 廣瀬教育長 > 新たに大学に編入できる制度ができましたよね。
- < 高校教育課長 > はい。米沢工業はまだその条件を満たしていないのですが、一定の条件を満たすと、専攻科2年間で修了した者が、大学3年生に編入できるように法が改正されました。
- < 武 田 委 員 > 米沢工業が条件を満たしていないというのは、どういう点ですか。
- < 高校教育課長 > 施設設備や指導教員の問題など、ハードルがあり、それをクリアすると編入する資格が得られることとなります。
- < 小 嶋 委 員 > 山大工学部とタイアップしてできませんか。例えば工学部で単位を取ると、編入できるようになるなどして。
- < 高校教育課長 > そうなると、定員10名では足りない状況になるかと思いますが、今後検討させていただきます。
- < 武 田 委 員 > 就職は決まっていますか。
- < 高校教育課長 > 就職率はずっと100%になっています。
- < 武 田 委 員 > 地域企業ですか。
- < 高校教育課長 > はい。ほとんどが米沢、あるいは長井の工業団地に就職が決まっています。

<廣瀬教育長> 大学に進学すると、その7割ぐらいが県外に就職してしまいますので、ある意味、県内就職をしてもらうための機関としては役割を果たしていると言えますね。

<涌井委員> それなのに定員割れとはどういう理由でしょうか。

<高校教育課長> 現状としては、産業技術短期大学校の併願先のような扱いになっており、一旦合格はするものの、実際に入学する段階になると辞退者が多く出てしまう状況にあります。そのため、専攻科そのものの魅力をもう少し発信していかないと厳しいのかなと思っています。

なお、米沢工業を卒業し、就職したものの、その仕事を辞めた方が、専攻科で1年、2年学んで、再度就職にチャレンジするため入学するケースも出てきています。新規学卒の場合は、就職先の候補はたくさんありますが、離職した場合は、なかなか就職が難しい状況がありますので、そういった点でもPRしていく、あるいは、近くの企業からの1年間の短期留学先としての扱いにしてもらえるようにPRをしていきたいと考えております。

<廣瀬教育長> それでは、ほかになれば、原案のとおり可決してよろしいですか。

<各委員> 異議なし。

<廣瀬教育長> 御異議なしと認め、議第1号及び議第2号は原案のとおり可決いたします。

<廣瀬教育長> 次の議第3号から議第5号までは人事に関する案件であることから、これより秘密会としていかがですか。

<各委員> 異議なし。

<廣瀬教育長> 御異議なしと認め、これより秘密会といたします。

《 関係者以外退出 議第3号から議第5号は秘密会にて審議 》

⑤閉会

<廣瀬教育長> これで、第1027回教育委員会を閉会いたします。